

1. 研究の目的

私は1954年「家庭管理能力の測定について」と題して家庭管理能力の測定法の試案を発表し、あわせて二三の予備調査を試みた。また家庭管理は最終的には家族の幸福を増進するものでなければならぬと考え、1958年「主婦の家庭管理能力と家族の幸福度との関係」と題して両者の関係の調査を試み、この測定法についての妥当性をも論じた。しかしその後も引続きいろいろの面から検討をなしていたが、今回ある修正案を得たのでここに報告したいと思う。

2. 方法

先に発表した測定法と今回の修正案とは測定因子の決め方など根本的な考え方においては何ら異なる所はない。ただ家庭管理の客体としての各資源の分類と言葉づかいを修正したに過ぎない。また家族の幸福度との関係についても前回と同じ方法で行なった。

3. 結果

先の測定法においては測定因子は42であったが、今回は管理過程としての行為は前と同じく6としたが、管理の客体としての資源を10に分類整理したので測定因子は60となった。また主婦の家庭管理能力と家族の幸福度との相関は前のものより相当高い結果が出た。このことは被調査者が前と同一でない欠点はあるが、より妥当性のあるものになったと考えられはしないだろうか。